



みなさんの**安心・安全**を確保するため 様々な対策を行っています。

太田川高潮対策事業

広島市中心部は、太田川デルタ上に発達した都市で市街地の多くは地盤が低く、また、広島湾が南に向けて開いていることから、台風などの来襲により、これまでも数多くの高潮被害を受けてきました。

そこで、全国にわたって甚大な被害をおよぼした伊勢湾台風級（昭和34年）の台風が来襲した場合でも、広島市内を安全に高潮被害から防御できるよう、太田川放水路および市内派川において高潮堤防を建設する「高潮対策事業」を昭和54年から実施しています。

太田川河川事務所では、過去の高潮被害の再度災害防止を目的とした対策として当面第2段階の施工高さの※T.P.+3.4mまでの整備を進めており、現在天満川の新観音橋（国道2号）の上流右岸（広島市西区観音本町1丁目）および下流両岸（中区舟入本町、西区観音本町1丁目）で工事を実施しています。



▲施工前の様子

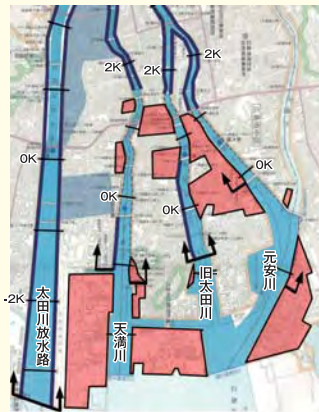


▲完成した高潮堤防 広島市中区舟入本町 平成23年11月29日撮影

高潮事業による整備効果

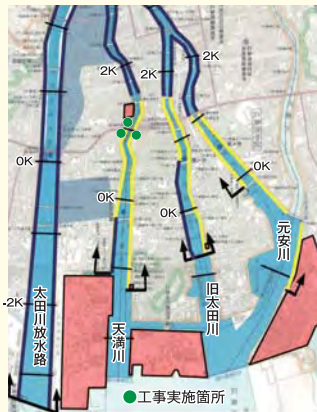
- 浸水区域
- 国管理区間
- 平成3年までにT.P.+3.4m以上の高潮堤防を整備した箇所（現況河岸高T.P.+3.4m以上も含む）
- 平成3年時点ではT.P.+3.4mを満たしておらず、平成3年以降にT.P.+3.4m以上の高潮堤防を整備した箇所

■ 高潮堤防の断面図イメージ



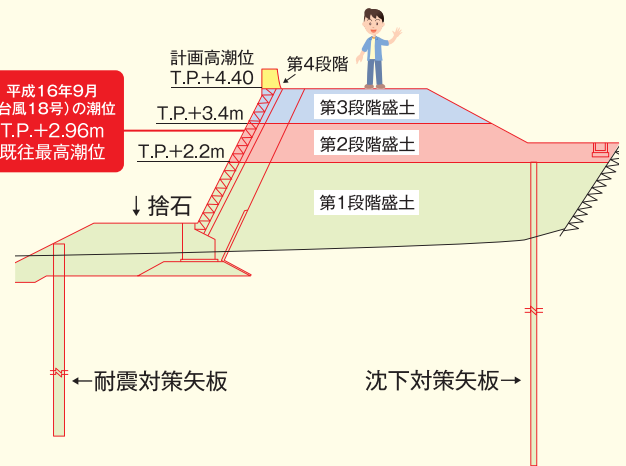
平成3年9月（台風19号）の浸水範囲

・潮位/T.P.+2.91m
・被害状況/床上浸水 575戸
床下浸水1,954戸



平成16年9月（台風18号）の浸水範囲

・潮位/T.P.+2.96m
・被害状況/床上浸水 86戸
床下浸水 92戸



平成16年9月（台風18号）の潮位
T.P.+2.96m
既往最高潮位

計画高潮位
T.P.+4.40

T.P.+3.4m

T.P.+2.2m

第4段階

第3段階盛土

第2段階盛土

第1段階盛土

←耐震対策矢板

沈下対策矢板→

※T.P.とは、河川を管理する基準となる標高で、東京湾平均海面高をいう。

水生生物調査結果

国土交通省では、昭和59年から、小・中学生や高校生を中心に一般の方々にも参加していただいて「水生生物による水質の簡易調査」を実施しています。

川の中、特に川底に住んでいる生物を調べること、その地点の水質の状況がわかります。このように、川の環境を伝えてくれる生物を指標生物と呼んでいます。川遊び感覚で楽しみながら調査でき、川をより身近に感じ水質浄化への関心を高められる機会にもなっています。

今年7月から10月にかけて、10団体約130人の参加をいただいて、下表の地点で調査を行いました。水生生物調査の結果から、昨年と同様にきれいな川ということが確認できました。来年もこの良好な水質が維持できるよう、皆様のご協力の程、宜しくお願いします。



▲両国橋付近での水生生物の採取の様子



▲新轟橋付近での観察の様子

■水生生物による水質の簡易調査「平成23年度実施結果」

凡例

水系名	調査地点名	調査月日	H23判定水質階級
河川名	調査団体名等(参加人数)		H22判定水質階級

水質階級を4階級で判定しています。

- きれい
- 少しきたない
- きたない
- 大変きたない

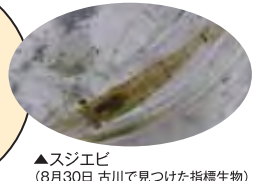
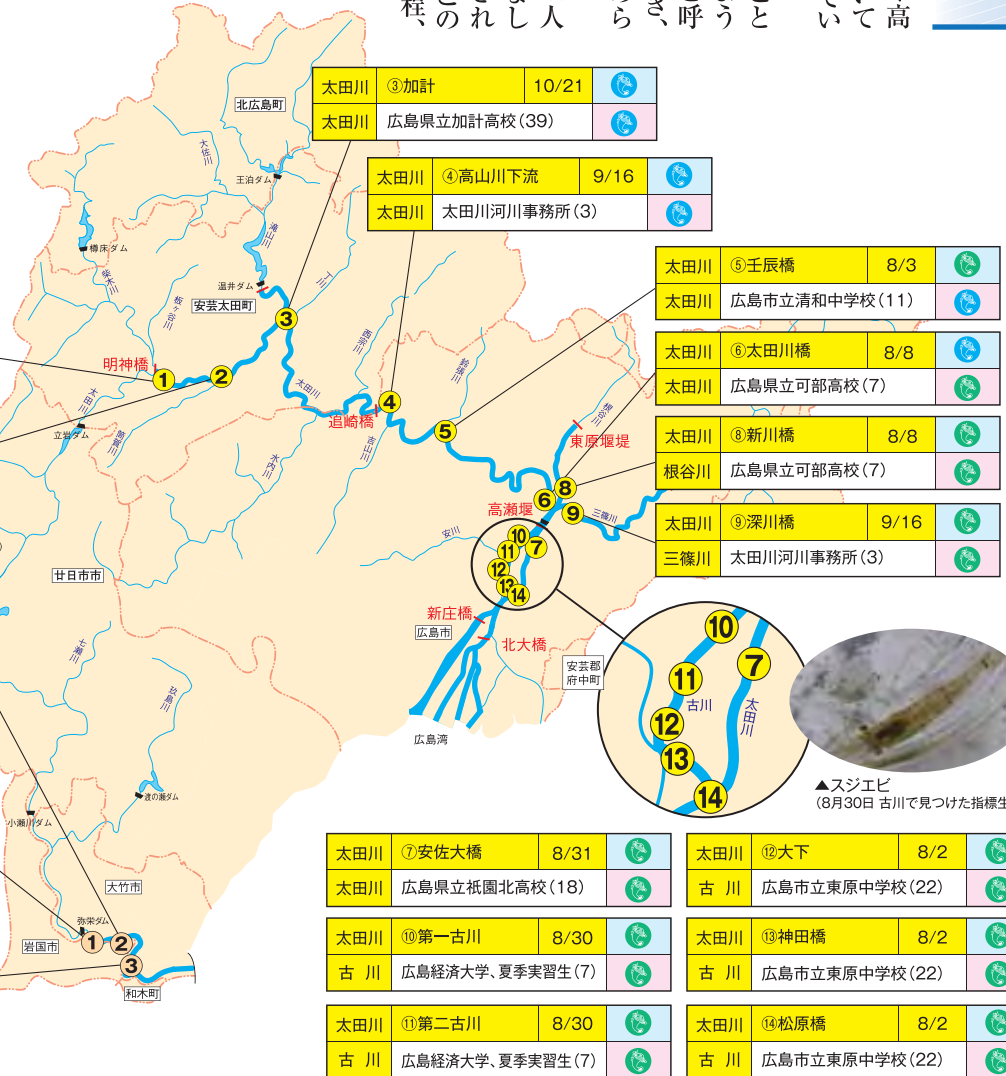
太田川	①柴木川下流	9/16	
太田川	太田川河川事務所(3)		

太田川	②新轟橋	7/12	
太田川	安芸太田町立殿賀小学校 安芸太田町立上殿小学校	(9)	

小瀬川	②御堂原	7/14	
小瀬川	大竹市立穂仁原小学校(10)		
小瀬川	②御堂原	10/13	
小瀬川	大竹市立穂仁原小学校(10)		

小瀬川	①小川津	7/14	
小瀬川	大竹市立穂仁原小学校(10)		
小瀬川	①小川津	8/10	
小瀬川	大竹理科部会(10)		

小瀬川	③両国橋	7/14	
小瀬川	大竹市立穂仁原小学校(10)		
小瀬川	③両国橋	10/13	
小瀬川	大竹市立穂仁原小学校(10)		



▲スジエビ (8月30日 古川で見つけた指標生物)



伐採後



伐採前

※平成22年度の様子

太田川河川事務所では、洪水の流下障害や不法投棄を誘発する恐れのある樹木など、河川管理上支障となる河川内の樹木を計画的に伐採・処分しています。

伐採コストの縮減及び木材資源の有効活用を目的に、太田川の河川内樹木について、一般の希望者に伐採していただき、その伐木を無償で持ち帰っていただく取り組みの公募を行いました。

多数のご応募をいただき、ご協力ありがとうございました。

太田川で 公募伐採を 実施中

※現在予定日に達したため募集は締め切っています。

河口干潟の保全と再生に向けて

「太田川生態工学研究会」を開催

11月22日、広島YMCAにおいて、平成22年3月に太田川放水路の旭橋下流左岸に造成した人工干潟におけるモニタリング調査の報告と意見交換を行う「太田川生態工学研究会 研究発表会」(代表福岡捷二 中央大学研究開発機構教授)を開催しました。

一般参加を含む約160名が聴講する中、貴重な植物やカニなどの生息状況、放水路における河床変動などの発表が行われました。



参加者のアンケートより

- 人工干潟でも感潮性動物が環境次第で復活することに驚いた。
- 治水だけでなく、緊急河川敷道路など防災にも使用され、放水路の大切さを改めて感じた。
- 興味深い話だったが、専門用語が多く難しかった。



▲フクド



▲ハクセンシオマネキ



▲スナガニ

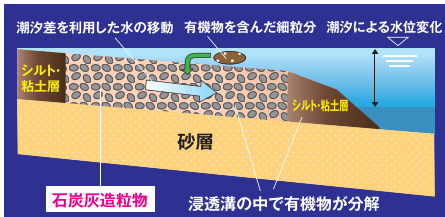
※「太田川生態工学研究会」は、放水路の海水と淡水が混じり合う汽水域において環境の保全や再生を目指して各分野の研究者が手を組み、調査・研究を行っているものです。

「泳げ・遊べる水辺づくり」 旧太田川で底質改善実施中!

河川内で快適に水と親しめる良質な空間づくりを目指して、平成20年度より、旧太田川(本川)で底質改善実験を行っています。近年、県や市をはじめ、地域から注目されている取組です。

底質改善のメカニズム

潮の満ち引きによる川の水位変化によって、石炭灰造粒物の間を水が移動し、酸素が周囲の泥に運ばれます。酸素が泥に行き渡ることで、有機物を含むヘドロが分解されます。



▲広島県知事も現地視察に来られました!

太田川市内派川には約30%の河岸干潟がありますが、その多くでヘドロが堆積して水際に近づくことが出来ません。ヘドロ化は生物生息環境、水辺環境の悪化などを引き起こしています。河川空間の利用に対する地域からの要請も高まっており、都市部における、環境再生が求められています。

(広島大学 日比野准教授)

太田川における不法投棄について

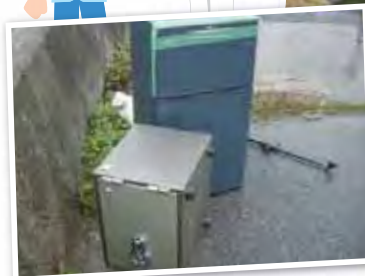
不法投棄は「犯罪」です!

太田川は、水質も良好であり、「水の都 ひろしま」として人々にやすらぎや憩いの場を提供する自然環境に恵まれています。しかし、太田川の至る所で不法投棄があり、太田川河川事務所管内において平成22年度の不法投棄件数は782件で、その不法投棄によるごみ処理量は約1,060㎡、ごみ処分費用は約3,930千円を要しました。

不法投棄による違法行為を発見・是正するため、当事務所では河川巡視やクリーン太田川などの一斉清掃のほか、関係機関と連携した取組みを行い、広く不法投棄の現状を訴えとともに、不法投棄防止に対する意識の高揚を図っています。



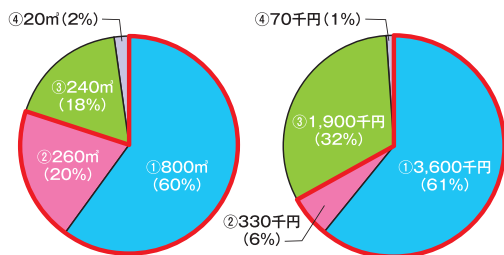
▲広島市内水面漁業協同組合との清掃



◀不法投棄された金庫と冷蔵庫

平成22年度ごみ処理量
合計/約1,320㎡
うち不法投棄分 約1,060㎡

平成22年度ごみ処分費用
合計/約5,900千円
うち不法投棄分 約3,930千円



不法投棄分(①+②)

- ① プラスチックごみ・容器包装・紙ごみ等
- ② 粗大ごみ・タイヤ・自転車・家電等
- ③ 流木・水草等
- ④ その他(動物の死骸等)

不法投棄をした者は、**5年以下の懲役若しくは、1千万円以下の罰金に処され、または併科されます。**テレビ、洗濯機、エアコン、冷蔵庫、パソコンは、リサイクル法に則って家電製品の小売業者などに引き取ってもらいましょう。

太田川河川事務所管内で投棄を目撃された方は、直ちに警察(110番)又は、太田川河川事務所(222-9248)へ通報してください。

対空標示 上空からの災害調査 被災箇所の迅速な 把握にむけて

大雨や地震などにより大規模災害が発生した場合、被災箇所を迅速に把握するために防災ヘリコプター等を活用し、上空から調査を行います。この時に被災位置を迅速に把握するための補助目印として、太田川放水路の護岸に河口からの距離や主要な橋梁名を標示(対空標示)しました。これにより、上空から被災箇所の位置特定が容易になり、迅速な災害対応につながる事が期待されます。標示実施箇所は砂防えん堤などの構造物を含めて順次拡大していく予定です。

また、防災ヘリコプターからの災害情報の伝達技術の向上や機器操作に慣れることを目的とした実地訓練を実施するなど、災害時に迅速な対応をとれるよう、日頃から訓練等を行っています。



▲河口からの距離を標示しています。
※Lは河口に向かって左側、Rは右側



▲堤防に設置している距離標柱



▲已斐出張所の敷地内にもランドマークとして出張所名を標示しました。



▲国道2号 旭橋付近の標示

防災環境学習 in 大町小学校

大町小学校では「防災環境学習」として、地域の歴史や土砂災害の恐ろしさなどを学習し、また地元ボランティアの方々と一緒に大町小学校近隣の武田山に登り、自然の大切さなどを学んでいます。

太田川河川事務所は、広島西部山系(広島市の一部、廿日市市の一部、大竹市の一部)において、直轄砂防事業として土流対策の砂防事業を実施しています。広島市内に位置する武田山周辺においても大町地区を始め、砂防事業を展開していることもあり、この「防災環境学習」の活動に協力させて頂いています。今年度は11月21日・22日の2日間、大町小学校6年生145名の皆さんを対象に出前講座を実施しました。

1日目は座学のほか、土流模型実験装置、3D土流体験装置を用いて土砂災害やその対策に関する話などを行いました。

2日目は、地元ボランティアの方々の案内による武田山登山を行いました。地元ボランティアの方々から武田山の歴史や自然環境などについて学びました。肌寒い日でしたが、朝から晴天に恵まれ、全員元気よく歩くことができました。

児童の皆さんからは、今回の防災環境学習を通じて、自然の大切さや土砂災害の恐さ、砂防事業の役割などを楽しく学ぶことができたとの感想がありました。



▲土砂災害や土砂災害対策について話を聞いている様子



▲砂防堰堤の役割を聞いている様子

出前講座通信 防災について学ぶ機会を設けています 地域イベントに体験装置出展

11月13日(日)、安佐南区祇園三丁目の祇園小学校において安佐南区防災訓練・防災フェアが実施されました。

訓練は安佐南区役所、安佐南消防署及び安佐南消防団主催のもと、自主防災会や地域住民など約500名の方々が参加し、大規模地震による災害を想定した、自主防災会単位での避難や、生活避難場所運営本部の立ち上げなどの訓練が行われました。

太田川河川事務所は「降雨体験装置*」及び「土流模型実験装置*」、「3D土流体験装置*」の出展を行い、訓練参加者に、豪雨体験や土流の怖さやメカニズムの実験・体験をしていただきました。参加者からは、「(豪雨体験は)予想以上に激しかった」「東北や近畿の災害の後の体験だったので良い経験になった」といった感想がよせられました。



*「降雨体験装置」: 弱い雨から最大で時間雨量100mmを超える規模の強い雨まで、様々な強さの雨を降らせることができるため、気象情報で言う様々な雨の強さがどのくらいの強さなのか体験できます。
「土流模型実験装置」: 模型を使って砂防堰堤の役割について知ることができます。「3D土流体験装置」: 3D映像などによってリアルに土流の恐ろしさを体験することができます。

11月23日(祝)、安佐南区の広島経済大学興道館にて行われた2011子育て応援イベント「ほわっと!ほっと!子育てり楽ゼーション」に「降雨体験装置*」の出展を行いました。

イベントは約2,000名の方の参加があり盛況の内に終了しました。また、雨天にもかかわらず110名以上の方に降雨体験装置にて豪雨体験を行っていただきました。

東日本大震災や今年度の台風12号、15号による災害を契機に、防災について学びたいといった声が大きくなり、昨年に比べ出前講座の出展が増えました。太田川河川事務所では、住民の皆様には正確な防災情報を知ってもらい避難等に役立ててもらうため、防災に関する出前講座の充実をはかっていきます。



降雨体験を行った子ども達からは「前が見えなかった」「怖かった」といった感想がありました。

太田川河川事務所では、河川や砂防に関する出前講座にお応えします。お問い合わせは当事務所まで。 ☎082-221-2436まで。

